

ごあいさつ

日本パーソナリティ心理学会第30回大会準備委員会
委員長 渡邊芳之

日本パーソナリティ心理学会第30回大会は、令和3年9月25日(土)、26日(日)の2日間にわたって、オンライン大会として開催いたします。昨年来、対面開催の可能性も念頭において開催方法を慎重に検討してきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が収束を見せない中、昨年度に引き続き第30回大会もオンライン大会とすることに決定しました。

また、このような状況における第30回大会では、これまでの大会のように「主催校」を置くことはせず、学会常任理事会を中心に準備委員会を組織し、大会を運営することにしました。こうした意思決定に時間がかかったことから、会員の皆様への大会日程の連絡が例年より遅くなるとともに、発表申込や論文集原稿提出のスケジュールが例年よりタイトになってしまったことを改めてお詫びいたします。

このように変則的な大会とスケジュールになったにもかかわらず、会員の皆様から多くの発表申込、自主企画の申込をいただくことができたことは、準備委員会として大きな喜びです。また、大会企画講演として今野晃嗣先生の「ヒト以外の動物から「性格」を考える」、経常的研究交流委員会企画講演として Dimitri van der Linden 先生の「一般パーソナリティ因子研究の現在とこれからの行方」、経常的研究交流委員会企画シンポジウム「コロナ禍に伴う教育・研究・実践のオンライン化での変化」など、会員の皆様に興味を持っていただけるような企画を用意することができました。また、大会前日にはヤングサイコロジストプログラム (YPP2021)も開催される予定です。

このように変則的な大会となり、主催校がないことからこれまでの大会のような参加者への細やかな心配りが不足する面もどうしてもあるかと思いますが、大会を開催して学会会員に研究発表や研究交流の機会を提供することは学会の最大の機能と責任であると考え、大会の準備を鋭意進めております。会員の皆様におかれましてはぜひ日本パーソナリティ心理学会第30回大会に参加をいただき、さかんな研究発表や研究交流を行ってくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

タイムテーブル

	9月25日 (土)	9月26日 (日)
9:00		
10:00	ポスター発表 1 9:30-11:30	ポスター発表 3 9:30-11:30
11:00		
12:00	理事会 12:00-13:00	総会 12:00-13:00
13:00		
14:00	大会企画講演 13:30-15:00	自主シンポ 13:30-15:00
15:00		経常企画シンポ 13:30-15:00
16:00	ポスター発表 2 15:30-17:30	経常企画講演 15:30-17:00
17:00		
18:00	懇親会 18:00-	
19:00		

大会参加者へのご案内

1. 会期

2021年9月25日(土)・26日(日)

2. 大会参加に関する諸費用

費目	区分		金額
大会参加費	デビュー割	院生会員(今回が初回)	2,000円
	予約	一般会員	6,000円
		院生会員	3,000円
		学生会員	1,000円
		臨時会員(一般)	8,000円
		臨時会員(院生)	5,000円
		臨時会員(学生)	1,000円
発表論文集	予約注文のみ		5,000円
	機関購入		6,000円

- 本大会では、当日参加は受け付けておりません。大会への参加を予定している方は、必ず**9月16日(木)**までに参加申込・入金を行ってください。
- 発表費用は参加費に含まれます。
- デビュー割とは、院生会員の方が本学会における発表を今大会で初めて行う場合に適用されるものです（自己申告制）。
- 大会に参加されない非会員の連名者の費用は不要です。
- 冊子形式の発表論文集は申込数に応じて印刷し、1冊5,000円(消費税・送料込み)で予約販売いたします。会期中および会期後の販売はいたしませんので、ご注意ください。大会に参加される方で論文集冊子の購入をされる方は、大会公式サイトから参加申込時に購入冊数を入力してください。機関購入や、大会に参加せずに論文集冊子のみ購入される方は、9月13日までに別途ヘルプデスク(jsp-p-desk@bunken.co.jp)にメールにてお申し込みください。
- 本大会では、会場型の懇親会を行わず、オンラインでの懇親会を行います。懇親会には、大会に参加される方はどなたでも参加できます。また、懇親会の参加にあたり、費用は不要です。
- 一旦お振り込みいただいた参加費につきましては、後日、ご参加を取りやめた場合も返金に応じませんので、ご了承ください。

3. 大会への参加方法

本大会では、講演会、シンポジウム、ポスター発表、総会などのプログラムをテレビ会議システム・Zoomを使用して、リアルタイムでの開催をいたします。

Zoom については、専用ソフトの利用を推奨しますが、ブラウザでも接続が可能です。また、専用ソフトはアップデートをし、最新のバージョンで接続してください。Zoom を初めて利用される方は、以下の URL より事前に接続テストを行ってください。

<https://zoom.us/test>

Zoom 会議 URL は大会プラットフォームでお知らせします。URL は各プログラムで異なりますので、必ず大会プラットフォームに記載されている URL から接続してください。なお、URL はご自身のみで使用し、大会に参加されない方にお伝えしないようお願いいたします。また、アカウント名は、参加者の氏名(漢字、ひらがな、ローマ字は問わない)を使用してください。カメラのオン/オフにつきましては、適宜ご判断ください。総会や講演、シンポジウムの間は、発言者以外はミュートにさせていただきますようお願いいたします。

大会参加に関わるインターネット環境の整備は参加者各自で行ってください。また、大会参加に関わる通信費等の費用は、参加者をご負担ください。

4. その他の注意点

大会期間中、発表の録音および録画、撮影などを行う場合は、発表者の許可を得るようにしてください。また、Twitter や Facebook など第三者が閲覧できるメディアに他者の発表に関する内容を発信する場合は、発表者や他の参加者の気分を害することがないように願います。

5. 大会関連行事のご案内

総会

大会 2 日目(9 月 26 日(日)) 12 時より Zoom にて開催いたします。開催前に Zoom の URL をお送りしますので、ご出席ください。なお、Zoom の URL は学会会員全員に学会に登録いただいたメールアドレスにお送りしますので、大会に参加していない学会会員も参加できます。

懇親会

大会 1 日目(9 月 25 日(土)) 18 時より oVice (<https://ovice.in/ja/>)を用いて開催いたします。大会プラットフォームでお知らせする URL をクリックすることで参加できます。アプリをダウンロードするなどの準備は不要です。なお、昨年度の優秀大会発表賞の授賞式を懇親会内で行います。

各賞授与式

大会 2 日目(9 月 26 日(日)) の総会にて学会賞・奨励賞の発表を行います。

理事会

理事会につきましては、大会 1 日目の 9 月 25 日(土)12 時より開催する準備を進めております。詳細は、別途、学会事務局より理事・監事の皆様にご連絡いたします。

ヤングサイコロジストプログラム(YPP2021)

大会前日(9 月 24 日(金)) 14 時～18 時に oVice を用いて行います。詳細は P.8～9 をご覧ください。また、学会 HP 内の 2021 年度ヤングサイコロジストプログラム(YPP2021)もあわせてご覧ください(https://jspp.gr.jp/sympo/wk_r3/)。

ミドルサイコロジストプログラム(MPP2021)

今大会での開催はありません。

6. 各種更新ポイントについて

本大会は臨床心理士の資格更新ポイントの対象となっております。臨床心理士に関しては、「日本臨床心理士資格認定協会：臨床心理士資格更新制度」の「3 本協会が認める関連学会での諸活動への参加」に該当します。

発表者へのご案内

1. ポスター発表

- 今大会のポスター発表は、3セッションとなります。日時は「大会日程」をご覧ください。ポスターセッションは大会ホームページからリンクされた「大会プラットフォーム」で行います。
- 「大会プラットフォーム」上には各発表の発表論文集原稿がアップロードされて、大会参加者が閲覧できるようになっています。発表1件に対してZoomのブレイクアウトルームを1つ割り当てます(一連発表の場合は、複数発表に対してブレイクアウトルームは1つとなります)。発表者は在席責任時間までに、Zoomにログインし、指定されたブレイクアウトルームに入室してください。また、アカウント名は、発表者の氏名(漢字、ひらがな、ローマ字は問わない)を使用してください。カメラのオン/オフにつきましては、適宜ご判断ください。
- 発表者は研究発表と質疑応答のためのスライドや資料を作成し、Zoomのブレイクアウトルームで画面共有したり、チャットを通じて配布したりすることができます。スライドや資料の書式や形式は自由です。
- 発表者は、在席責任時間(奇数番号はセッション開始後60分、偶数番号はセッション終了前60分)の間、指定されたブレイクアウトルームに在室し、質疑応答に応じる必要があります。その際、必要に応じて事前に作成した資料などを共有していただいて構いません。
- セッション終了時刻になりましたら、Zoomは強制的に終了します。
- 責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、事前に大会準備委員会の承認を得て、連名発表者が発表を代行することができます。ただし、承認がない場合、正式な発表として認められない場合がありますので、ご注意ください。代行や発表取り消しについては、事前に大会準備委員会(30jspp2021@gmail.com)までご連絡ください。
- 今大会でも、優秀大会発表賞を設けます。例年通り、論文集原稿を対象にした1次審査と、当日の発表・質疑応答および発表資料も対象にした2次審査による2段階審査で受賞者を決定します。また本年度はオンライン開催の特徴を生かし、2次審査は大会参加者による投票で行います。

2. 準備委員会企画・各種委員会企画

- 開催 10 分前になりましたら、大会プラットフォームにアクセスし、指定された当該企画の URL から Zoom に入室してください。アカウント名は、登壇者の氏名(漢字, ひらがな, ローマ字は問わない)を使用してください。
- スライドなどはその場で画面共有をしていただきますので、事前に提出・アップロードの必要はありません。事前に大会参加者への配布を希望される場合は、大会準備委員会(30jspp2021@gmail.com)までご連絡ください。

2021 年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2021)

日本パーソナリティ心理学会では毎年、若手研究者同士の議論や交流、情報交換の場として、年次大会の前日にヤングサイコロジストプログラム (YPP) を開催しています。2021 年度の YPP は、「多様なキャリアパスについて考える」をテーマに開催いたします。同世代の研究者同士の交流を深められたり、学位取得後に民間企業で勤務されている講演者の先生のご経験を伺えたりと、充実したプログラムをご用意しておりますので、奮ってご参加ください。

【開催日時】 2021 年 9 月 24 日 (金) 14:00 ~ 18:00 (予定)

※パーソナリティ心理学会年次大会 (2021 年 9 月 25 日 (土)・26 日 (日)) の前日です。

※途中参加・途中退出も可能です。ご希望の方は事前にご連絡いただけますと幸いです。

※プログラム終了後には、オンラインにて懇親会を予定しております (18:30 から 2 時間程度)。是非ご参加ください。

【開催場所】

今年は oVice (<https://ovice.in/ja/>) を用いてオンラインで開催いたします。詳細は参加登録をされた方にお送りします。

※oVice の使用料はかかりません。

※後日お知らせする URL をクリックすることで参加できます (アプリをダウンロードするなどの準備は必要ありません)。

※当日、oVice に関して問題があった場合は、企画担当 (jspp.wk[at]gmail.com ([at]→@)) にご連絡ください。

【企画内容】

企画 1: ミニ研究発表セッション

いくつかのグループに分かれ、その中で発表を希望する方がご自身の研究や興味のある分野について紹介し、発展のさせ方、深め方、応用の仕方についての意見交換を行うことができます (目安として各発表者につき質疑応答を含め 20 ~ 30 分)。

※企画 1 のミニ研究発表セッションは、基本的に参加者皆様にご発表いただく予定です。もし発表を希望されない場合は、応募フォーム【企画 1 における研究発表】にて「発表を希望しない」にチェックを入れていただくようお願いいたします。

※発表希望の申し込み人数が多数の場合は、時間の関係上、やむをえず先着順とさせていただきます。また、一人当たりの発表時間も発表希望者数により変動いたします。

※発表者となった方は、ご自身の研究紹介に役立つ資料 (学会発表等で用いたポスターや、ゼミの資料等) をご用意ください。

休憩 一質問用アディショナルタイム (20 分)

グループが異なる方と意見交換をする場として、質問用のアディショナルタイムを設けます。

※参加者の皆様には、全員分の発表資料を事前に共有いたします。発表資料の共有方法につきましては、後日改めてご連絡をさせていただきます。「質問用アディショナルタイム」はこの事前に共有された資料をもとに、興味のある研究者と交流ができる場となります。

企画2：若手会員による講演&ディスカッション

「多様なキャリアパスについて考える」というテーマに関して、NEC ソリューションイノベータ株式会社の市川 玲子 先生、鉄道総合技術研究所の菊地 史倫 先生にご講演いただきます。

市川 玲子 先生

タイトル：大学院で身につく能力を社会で役立てる—IT 知識がない IT 企業研究職の話—

菊地 史倫 先生

タイトル：企業研究者として働く

【懇親会】 18:30 から 2 時間程度で、oVice にて行います。

【参加資格】 学部・大学院に在籍中 or 卒業・修了/退学後 5 年以内の方

※パーソナリティ心理学会員以外の方も歓迎します。

【参加費】 無料

【申込方法】 下記の URL にアクセスし、応募フォームに従って申込みをお願いいたします。

《応募フォーム》 <https://forms.gle/rhaUWZ7gLn4Uvuy17>

※応募フォームの最後で、講演される先生への質問を募集しております。ぜひご回答ください。

【申込締切日】 2021 年 8 月 24 日 (火) ※YPP 開催日の 1 か月前となります。

【連絡先】 [jspp.wk\[at\]gmail.com](mailto:jspp.wk[at]gmail.com) ([at]→@)

【企画】 小笠原 香苗 (総合研究大学院大学・企画担当代表), 田口 恵也 (名古屋大学), ケイン 聡一 (広島大学), 萩原 千晶 (早稲田大学)

【主催】 日本パーソナリティ心理学会広報委員会

大会準備委員会企画講演

ヒト以外の動物から「性格」を考える

講演者：今野晃嗣（帝京科学大学アニマルサイエンス学科）
企画：日本パーソナリティ心理学会第30回大会準備委員会
司会：渡邊芳之（帯広畜産大学）

講演概要

近年、ヒト以外の動物の「性格」研究が世界的な盛り上がりを見せています。動物行動学や行動生態学ではさまざまな種が対象になっており、動物行動にみられる一貫した個体差が個体の生活史や集団の進化とどう関連するのかという問題が明らかになりつつあります。本発表では、イヌ *Canis familiaris* を対象にした実証研究を紹介しながら、「性格」という複雑な概念を扱うときに動物研究が重視する考え方について解説します。そして、生物学的な視点の導入がヒト *Homo sapiens* の「性格」を理解するときにも有用である可能性について議論したいと思います。

講演者略歴

2009年3月 東北大学大学院 文学研究科 人間科学専攻 博士前期課程 修了
2012年3月 東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 博士課程 修了
2012年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD) (京都大学野生動物研究センター)
2014年4月 帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科 助教
2017年4月 帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科 講師

主著等

今野晃嗣, 長谷川壽一, & 村山美穂. (2014). 動物パーソナリティ心理学と行動シンドローム研究における動物の性格概念の統合的理解. *動物心理学研究*, 64(1), 19-35.

Konno, A., Inoue-Murayama, M., Yabuta, S., Tonoike, A., Nagasawa, M., Mogi, K., & Kikusui, T. (2018). Effect of canine oxytocin receptor gene polymorphism on the successful training of drug detection dogs. *Journal of Heredity*, 109(5), 566-572.

Konno, A., Romero, T., Inoue-Murayama, M., Saito, A., & Hasegawa, T. (2016). Dog breed differences in visual communication with humans. *PLoS One*, 11(10), e0164760.

Konno, A., Inoue-Murayama, M., & Hasegawa, T. (2011). Androgen receptor gene polymorphisms are associated with aggression in Japanese Akita Inu. *Biology Letters*, 7(5), 658-660.

The General Factor of Personality: Its current status and the topics of debate

(一般パーソナリティ因子研究の現在とこれからの行方)

講演者：Dimitri van der Linden (Erasmus University Rotterdam)

司会者：川本 哲也 (国土舘大学)

企画：日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会

1. 企画主旨

Research on personality is predominantly guided by various well-known models such as the Big Five, Eysenck's Giant Three, or the 6-factor HEXACO model. It has also been known for quite some time, however, that the personality dimensions in those models tend to be correlated, in such a way that socially-desirable traits tend to cluster into a general factor. Initially, it was assumed that this general factor merely represents statistical or social desirability biases related to the way personality is measured (i.e., by questionnaires). Nevertheless, since one and half decade or so, systematic research on this general factor of personality (GFP) has also tested the possibility that it reflects a genuine higher-order construct on top of the personality hierarchy.

Research on the GFP has now consistently shown that the factor relates to a wide range of other-rated or objective outcomes, such as job performance, social effectiveness, income and status, and even to the number of children. Moreover, the GFP seems to drive many of the associations and patterns that are found with other personality traits such as the Big Five. Therefore, we are now beyond the stage of questioning whether a GFP exists or whether it shows meaningful relations with other important life variables, because the answer to both of these questions is affirmative.

Yet, several important questions about the nature and influence of the GFP remain open. In the present talk I will discuss the most recent studies and ideas on the GFP. We will go into various current topics of debate. For example, some scholars are not sure whether it reflects a true personality dimension. What does the current empirical evidence say about this? Moreover, even if the GFP is a genuine higher-order factor, then how would it influence lower-order traits? The latter question has been addressed in light of

emotional intelligence, but recently other candidates have also been considered, such as ego resilience. And finally, it is relevant to examine the status of the GFP in relation to other theories of human behavior, such as evolutionary accounts of personality. All in all, the talk aims to provide an overview on where we stand with regard to the GFP, and also what may be future directions and implications.

2. 講演者紹介

ディミトリ・ファン・デル・リンデン先生は、オランダのエラスムス・ロッテルダム大学の産業・組織心理学部 (Department of Work and Organizational Psychology) の教授です。ファン・デル・リンデン先生は、パーソナリティの階層構造 (例えば GFP) や認知能力、個人差の進化的起源などを扱う、個人差研究を主たる関心とされています。また、疲労やストレスなどの心理状態に関する認知的、精神生理学的研究や、課題に完全に没頭するフロー状態に関する研究も進められています。ファン・デル・リンデン先生の研究テーマはとても幅広いため、これまでの先生の研究は *Psychological Bulletin*, *European Journal of Neuroscience*, *Biological Psychology*, *Evolution and Human Behavior*, *Intelligence*, *Journal of Research in Personality* など、多様な学術雑誌に掲載されています。現在、ファン・デル・リンデン先生は *Personality and Individual Differences*, *Acta Psychologica*, *Frontiers in Psychology* の編集委員 (Associate Editor) もされています。

3. 研究業績

ファン・デル・リンデン先生の研究業績に関しては、エラスムス・ロッテルダム大学の Web ページや Google Scholar をご参照ください。

<https://www.eur.nl/en/people/dimitri-van-der-linden>

<https://scholar.google.com/citations?user=fkzNrHkAAAAJ&hl=ja>

※本公演は英語で行われます。

経常的研究交流委員会シンポジウム

—コロナ禍に伴う教育・研究・実践のオンライン化での変化—

企画者：日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会

司会者：水野君平（北海道教育大学旭川校）

話題提供者：永井暁行（金沢星稜大学）、西山慧（京都大学）、

高階光梨（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター）

指定討論者：小塩真司（早稲田大学）

1. 企画主旨

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、様々なイベントは延期・中止か感染拡大防止の措置が取られての開催、企業でのリモートワーク導入など、ここ1~2年で社会情勢は大きく変化した。各種学校では休校措置が取られた時期もあり、大学でも同様に非対面形式の講義が導入されたり、対面での臨床活動や学会活動、実験などの研究実施が困難になりオンラインでの実践にシフトせざるを得ない状況となった。このような「コロナ禍」での大きな変化によって、例えば運動習慣の減少など悪影響もなど大きい。しかしその反面、例えば、非対面授業であれば講義動画を何度も視聴できることや、より容易に全国の人々と交流できる機会を得られるなどの良い変化もあったように思える。そこで本シンポジウムでは3名の研究者から大学教育、心理支援、研究実践の各トピックについて話題提供いただき、オンライン化したことによる変化の肯定的側面を議論したい。

2. 話題提供者の要旨

2.1. コロナ禍における大学教育のための対応・サポートの実態

永井 暁行（金沢星稜大学）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、多くの大学では感染拡大の防止と大学教育の維持を両立するため、様々な対策を立てることになった。この対策の1つとして、ICTを活用して学生と教員が教室に参集することのない非対面での授業を多くの大学が取り入れた。大学教育においてICTの活用は必ずしも十分に普及していなかったが、感染拡大の防止のためにICTへの注目が高まった。

急進的なICTの活用は学生や教職員に戸惑いをもたらした。たとえば、金子・永井（2020）によれば、大学教育を維持するために繰り返し教員への研修が実施された他、学生や授業へのサポートが様々な実施されたことが報告されている。このような資料からも、2020年度から十分な準備もないままICTを活用して授業を実施することが困難であったことが伺える。

一方で、2020年度前期に学生の主体的学習態度を調査した永井（2021）によれば、平均値としては例年に比べて主体的学習態度が低いという結果は示されなかった。コロナ禍が大学教育に困難をもたらしたのは事実であるが、それは必ずしも学習過程の停滞には繋がらなかった。2021年度も昨年と同様に感染拡大の防止に配慮した教育が求められている。2020年度の大学教育の様子を振り返ることで、今後の大学教育におけるオンライン化の意義を検討する。

引用文献

金子 大輔・永井 暁行（2020）. 北星学園大学における非対面授業に対する支援態勢の構築と学生の意識変化 教育システム情報学会誌, 37, 286-296.

永井 暁行（2021）. コロナ禍の非対面授業における学生の主体的な学修態度 —非対面授業との適合との関連— 心理学研究 Advance online publication. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.92.20322>

2.2. 研究実践のオンライン化の利点とそれを支えるツール

西山 慧（京都大学）

PC・スマートフォンの普及に伴い、近年オンライン実験・調査は浸透しつつあった（黒木, 2020; 三浦, 2020）。COVID-19の感染拡大に伴い、対面での実験・調査の

実施が困難となったため、それらの普及が一気に進んだ。

オンライン実験・調査は、実験課題や調査項目が表示されるウェブページである。参加者は自身の利用可能なPCからそのページにアクセスすることで実験・調査に参加することができる。そのため、実験・調査が時間・場所を問わず、非対面で実施できる。

実験・調査のオンライン化の最大の利点は、クラウドソーシングサービスを利用して大きなサンプルサイズ（数百、数千人）のデータを短期間に収集できることである。サービス利用者は幅広い年齢層で構成されているため、大学生以外のデータも容易に収集することができる。また、日本以外のクラウドソーシングサービスを利用すれば、海外のデータをたくさん収集することも可能である。

オンライン用に作成された実験・調査は、対面でも利用できる。特に、同時期に複数地域で並行して対面実験・調査を実施する場合に有用である。ウェブブラウザのインストールされたPCがあれば、実験・調査用ページのURLにアクセスするだけで実験・調査を実施することができるため、実験プログラムを本体にインストールしたり、紙媒体の調査用紙を用意したりするなどの（時に煩雑な）準備をする必要がなくなる。

本発表では、このような利点に触れ、研究実践のオンライン化の現状について議論を深めたい。加えて、オンライン実験・調査ツール群および一般的な実施の流れも紹介し、オンライン実験・調査の経験がない研究者にとって、本発表がその端緒となることを目指す。

引用文献

黒木大一郎 (2020). ウェブ実験の長所と短所、およびプログラム作成に必要な知識. *基礎心理学研究*, 38(2), 250-257.

三浦麻子 (2020). 心理学研究法としてのウェブ調査. *基礎心理学研究*, 39(1), 123-131.

2.3. 遠隔心理支援の現在：利点と課題

高階 光梨

(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
認知行動療法センター)

COVID-19の感染拡大は、今もなお、世界中の人々に甚大な影響を与え続けている。国内外で実施された

COVID-19 流行下や過去の感染症流行期の疫学調査から、不安、抑うつ、PTSDといったメンタルヘルスの問題の増加が指摘されており (e.g., Rajkumar, 2020), 心理的支援の重要性が高まっている。現在、政府や学会から対面による心理的支援活動が制限されているわけではない。しかしながら、対面での支援は感染リスクを高める可能性があり、感染症予防の観点から、支援の選択肢の一つとして遠隔での心理的支援の重要性が指摘されている (田中, 2021)。

サービスの受給者と提供者が物理的に離れた場所にいる状況で、情報技術を介したコミュニケーションによって提供される心理支援サービス全般はアメリカ心理学会によって遠隔心理支援 (Telepsychology) と定義されている (American Psychological Association, 2013)。遠隔心理支援は、人と人が対面で接触することが困難な状況下において、必要な支援を継続して提供する手段としてだけでなく、心理的な支援へのアクセスの改善、コストの効率化、ニーズの充足など多くの利点がある。

そこで、本発表では、まず、遠隔心理支援の統合モデルを用いて遠隔心理支援の実践について整理したうえで、最新のメタレビューの結果から遠隔心理支援の研究動向、そして有効性のエビデンスについて紹介する。次に、遠隔心理支援の利点や課題について述べ、課題の解消を目指すべく行われている最新の究について紹介する。本発表を通して、心理支援のオンライン化による利点や課題について議論を深めたい。

引用文献

American Psychological Association, Joint Task Force on the practice of Telepsychology. (2013). APA guidelines for the practice of telepsychology. *American Psychologist*. Retrieved from <https://www.apa.org/practice/guidelines/telepsychology>

Rajkumar R. P. (2020). COVID-19 and mental health: A review of the existing literature. *Asian Journal of Psychiatry*, 52, 102066. <https://doi.org/10.1016/j.ajp.2020.102066>

田中恒彦 (2021). オンライン心理相談実践のためのガイドライン 精神療法, 47(3), 303-309.

自主シンポジウム

サブカルチャー心理学のこれまでとこれから

企画者・司会者：山岡重行（聖徳大学）

話題提供者：杉浦義典（広島大学）

岡田努（金沢大学）

岡田有司（東京都立大学）・家島明彦（大阪大学）

菊池聡（信州大学）

指定討論者：渡邊芳之（帯広畜産大学）

企画主旨

近年、オタクを「___オタ」と呼ぶことが増えている。従来「オタク」とは、マンガ・アニメ・ゲームにはまっている人たちを指していたが、近年は「アニオタ」とか「ゲームオタ」と限定的に呼ぶようになり、「オタク」概念がサブカルチャーのかなりの部分をカバーするように拡大されつつある。

本シンポジウムではサブカルチャーを「良識ある大人たちのメインカルチャーから、幼稚で低級、俗悪な遊びとして白眼視されてきた若者文化」としておく。

サブカルチャー領域の多くは「趣味・遊び」と見なされ、心理学の研究対象と見なされなかった。しかし、サブカルチャーは生きがいと幸福感を与え個人のQOLを高めるものでもある。QOLが心理学の重要なテーマであるならば、QOLを高めるサブカルチャーも心理学の重要なテーマになるはずである。

本シンポジウムでは、我々のサブカルチャー研究について簡単に紹介し、今後の研究について語ってもらう。皆様にサブカルチャー研究を紹介するとともに、新たな研究仲間の出現に期待するものである。

ポスター発表 1 9月25日(土) オンライン開場時間：9時30分～11時30分

在席責任時間 奇数番号：9時30分～10時30分 偶数番号：10時30分～11時30分

※番号の下の(BR●)はZoomでのブレイクアウトルームの番号です。

※ # は非会員

1-1 (BR1)	グループ活動の評価の変化と学びの深まりの認知について	富岡比呂子	創価大学
1-2 (BR2)	小学生におけるプログラミング学習に関する興味と測定—認知的熟慮性、自己効力感との関連の検討—	本田真大 伊藤崇達	九州大学大学院人間環境学府 九州大学大学院人間環境学研究院
1-3 (BR3)	eスポーツプレイヤーにおけるゲーム没入感	山本晃輔 曾我千亜紀 # Menant, Julien #	大阪産業大学／立命館大学 大阪産業大学 大阪市立大学
1-4 (BR4)	向社会的行動の自発性が幸福感に及ぼす影響—対人的満足感・対人的自己効力感を媒介としたモデルに向けて—	増井朋花 藤島喜嗣 # 平野真理	東京家政大学大学院 昭和女子大学 東京家政大学
1-5 (BR5)	自閉スペクトラム症をもつ成人女性の子育てに関する質的検討—母親の語りからみる困難感と支援ニーズ—	齊藤彩 佐藤みのり	お茶の水女子大学基幹研究院 山梨英和大学
1-6 (BR6)	どのようないじめの手口が中学生の抑うつリスクを高めるのか—決定木分析による抑うつリスクを高めるいじめの分類の試み—	水野君平 太田正義 # 加藤弘通 #	北海道教育大学旭川校 常葉大学 北海道大学
1-7 (BR7)	効果的な就労移行・就労定着支援システムに関する研究(1)—マナビトにおける支援の現状と課題—	佐藤みのり 竹山康代 齋藤彩	山梨英和大学 株式会社アライブネット お茶の水女子大学
1-8 (BR8)	「知能は成長しない」という信念が妬みを強めるとき	服部陽介 池田賢司 #	大手前大学 東海学院大学
1-9 (BR9)	中学生における学業ストレスがインターネットゲーム依存に及ぼす影響—学級雰囲気調整変数として—	陳潤澤	鳴門教育大学大学院
1-10 (BR10)	教育現場における学生のダイナミックな体験をどう捉えるか?—ZICEを用いた学外実習体験の把握と表現の試み—	山下温子 後藤龍太 五十嵐麻希 森慧太朗 齋藤央騎 # 平野直己	岩見沢キャンプ心理学研究会 岩見沢キャンプ心理学研究会 岩見沢キャンプ心理学研究会 岩見沢キャンプ心理学研究会 岩見沢キャンプ心理学研究会 岩見沢キャンプ心理学研究会
1-11 (BR11)	高校生における社会的達成目標と学校適応の短期縦断的検討	海沼亮 外山美樹	松本大学 筑波大学

1-12 (BR12)	自己および他者領域の情動知能が自尊心 情に与える影響の縦断的变化—昼間定時 制高校生を対象とした2年4波の調査を 通して—	赤松大輔 小泉隆平	京都教育大学 近畿大学
1-13 (BR13)	留学体験の異文化適応とパーソナリティ の関連 (1) —留学前後比較および社会文 化適応による検討—	小田切紀子	東京国際大学
1-14 (BR13)	留学体験の異文化適応とパーソナリティ の関連 (2) —社会文化適応および行動変 容信念による検討—	沼田真美 小田切紀子 Nofle, Erik #	目白大学 東京国際大学 Willamette University
1-15 (BR14)	教員養成大学生の教育相談における曖昧 さへの態度と教師効力感	西村佐彩子	京都教育大学
1-16 (BR15)	学校教員の学校組織風土認知とバーンア ウトとの関係—年齢と性別を考慮に入れ て—	磯和壮太朗 今井田貴裕 #	名古屋芸術大学 甲南大学
1-17 (BR16)	Body- and Appearance-related Self-conscious Emotions Scale 日本語版の作成	鈴木公啓 矢澤美香子 山宮裕子 #	東京未来大学 武蔵野大学 テンプル大学ジャパン
1-18 (BR17)	日本語版 Generalized Problematic Internet Use Scale2 作成の試み	山上尚彦	関東学院大学
1-19 (BR18)	他者存在意識尺度の開発——自己臭・自 己視線恐怖症状と他者存在に関する緊張 感・不安感をめぐって——	吉田知弘	文京学院大学大学院
1-20 (BR19)	メンタライズされた感情認識尺度日本語 版の作成—成人を対象とした信頼性と妥 当性の検討—	馬場天信 上地雄一郎 #	追手門学院大学 岡山大学大学院
1-21 (BR20)	日本語版マインドフル・イーティング・ス ケール (MES) 作成の試み	高橋誠 鈴木公啓 関谷大輝 # 森本哲介	人間環境大学 東京未来大学 東京成徳大学 兵庫教育大学
1-22 (BR21)	デジタルゲーム利用に対する非一貫的な 養育行動尺度の作成	松尾由美 田島祥 鄭姝# 堀内由樹子 寺本水羽 坂元章	江戸川大学 東海大学 お茶の水女子大学 お茶の水大学大学院 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学
1-23 (BR22)	心理尺度を用いた個人差研究で報告され たサンプルサイズの評価—2015年度から	三枝高大 澤田奈々実	早稲田大学大学院文学研究科 早稲田大学大学院文学研究科

- 2019 年度のパーソナリティ研究掲載論文 小塩真司 早稲田大学文学学術院
を対象として—
- 1-24 経済的搾取に対する脆弱性尺度の作成 大久保智生 香川大学
(BR23)

ポスター発表2 9月25日(土) オンライン開場時間：15時30分～17時30分

在席責任時間 奇数番号：15時30分～16時30分 偶数番号：16時30分～17時30分

※番号の下の(BR●)はZoomでのブレイクアウトルームの番号です。

※ # は非会員

2-1 (BR1)	パーソナリティはコロナ禍の人生満足度 にどう影響するかービッグファイブによる 交差遅延効果モデルの比較検討ー	平野真理 中坪太一郎 # 綾城初穂 #	東京家政大学 淑徳大学 駒沢女子大学
2-2 (BR2)	地域レベルのパーソナリティ特性とコロ ナウイルス感染者割合の関連ー東京都を 対象とした検討ー	吉野伸哉 小塩真司	早稲田大学大学院文学研究科 早稲田大学文学学術院
2-3 (BR3)	思春期の情緒や行動の問題と関連する解 離体験の内容ー尺度項目からみる具体像 ー	森彩乃	お茶の水女子大学
2-4 (BR4)	HSP 傾向と対人ストレスコーピングの関 連	高畑慶子 小俣和義 # 平野真理	東京家政大学大学院人間生活 学総合研究科 青山学院大学 東京家政大学
2-5 (BR5)	ポジティブな「状況」に関する研究(5) ー強みと状況認知によるウェル・ビーイ ングの諸側面の予測ー	堀毛一也	東洋大学
2-6 (BR6)	強迫傾向と睡眠の不調(2)ー夢内容の質 的分析ー	松田英子	東洋大学社会学部社会心理学 科
2-7 (BR7)	自己連続性の要素についての質的検討ー 自己の安定性と物語性に注目してー	浅山慧 外山美樹	筑波大学 筑波大学
2-8 (BR8)	大学生・大学院生の自殺に対する態度と レジリエンスの関連	広野なるみ 相馬誠一 # 平野真理	東京家政大学大学院 東京家政大学 東京家政大学
2-9 (BR9)	大学生用「『推し』がいることによるポジ ティブ感情・ネガティブ感情尺度」作成の 試み	大上真礼 松永東子 #	金沢学院大学 金沢学院大学卒業生
2-10 (BR10)	催眠に対する態度が催眠感受性に及ぼす 影響における Locus of Control の調整効果	中谷智美 福井義一 大浦真一 今井田貴裕 #	甲南大学大学院人文科学研究 科 甲南大学 東海学院大学 甲南大学
2-11 (BR11)	セルフコントロールが成果や幸福感をも たらすメカニズムー自己決定理論の見地 からー	間賀田悠吾	同志社大学

2-12 (BR12)	美術教育における自画像制作による潜在的自己イメージの変化	西口雄基 丸山友理子 # 前田基成	東京大学 女子美術大学 女子美術大学
2-13 (BR13)	ペアデータによるパーソナリティ障害傾向と自己呈示行動との関連—自己評価と他者評価による検討—	榎引夏歩 望月聡 大坪万莉 # 櫻井美妃 # 菅原さくら # 吉原拓哉 #	筑波大学大学院人間総合科学研究科 法政大学 筑波大学人間学群 筑波大学人間学群 筑波大学人間学群 筑波大学人間学群
2-14 (BR14)	大学生におけるマインドワンダリングの場面ごとの想起内容の違いに関する基礎的研究—MW-D/S と場面想定法を利用して—	鎌尾美彩子 川人潤子 橋本忠行 #	香川大学 香川大学 香川大学
2-15 (BR15)	意思決定スタイルが大学適応に与える影響—自己制御行動を媒介変数として—	岩渕将士	東北大学大学院理学研究科
2-16 (BR16)	自己と他者における失敗エピソードの記憶 (4) —想起された失敗直後の感情価に関する分析—	中田英利子 向居暁 富高智成 清水寛之 #	桃山学院大学 県立広島大学 京都医療科学大学 神戸学院大学
2-17 (BR17)	自閉スペクトラム症における感覚過敏性と社会的接触の回避との関連	氏家悠太 高橋康介 #	立命館大学 OIC 総合研究機構・ 日本学術振興会 立命館大学総合心理学部
2-18 (BR18)	女子大学生の生活スタイル及び人格特性とストレス信念との関連性	劉艶艶	お茶の水女子大学
2-19 (BR19)	来日留学生の心理相談の援助要請に関するレビューと調査	Lee, Steve K. 田山淳 #	早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学人間科学学術院
2-20 (BR20)	Covid-19 流行初期と 1 年後の自粛期間中における母親の QOL 変化—気質特性との関連—	孫怡 神崎真実 土元哲平 # 肥後克己 # サトウタツヤ 安田裕子 # 鈴木華子 # 岡本尚子 # 矢藤優子	立命館大学アジア日本研究機構 立命館大学 立命館大学 立命館大学 立命館大学 立命館大学 立命館大学 立命館大学

- | | | | |
|----------------|---|------|------------|
| 2-21
(BR21) | 曖昧さ耐性と新型コロナウイルス恐怖の
関連における新型コロナウイルス対処行
動の媒介効果の検討 | 友野隆成 | 宮城学院女子大学 |
| 2-22
(BR22) | アディクション傾向と“自己治療”のあり
方—病理的自己愛及びコンパッションへ
の恐れとの関連— | 川崎直樹 | 日本女子大学 |
| 2-23
(BR23) | 大学生におけるサポートの互惠性と精神
的健康—友人関係と親子関係に着目して
— | 谷口弘一 | 下関市立大学経済学部 |

ポスター発表3 9月26日(日) オンライン開場時間：9時30分～11時30分

在席責任時間 奇数番号：9時30分～10時30分 偶数番号：10時30分～11時30分

※番号の下の(BR●)はZoomでのブレイクアウトルームの番号です。

※ # は非会員

3-1 (BR1)	プライバシーポリシーの内容を確認する 状況の整理	佐藤広英 太幡直也 金森祥子 # 野島良 #	信州大学／国立研究開発法人 情報通信研究機構 愛知学院大学／国立研究開発 法人情報通信研究機構 国立研究開発法人情報通信研 究機構 国立研究開発法人情報通信研 究機構
3-2 (BR2)	プライバシー意識の日土比較	太幡直也 佐藤広英 Öztürk, Deniz # Eyüboğlu, Gülcan # Baykara, Zehra Göçmen #	愛知学院大学 信州大学 Başkent University Gazi University Gazi University
3-3 (BR3)	被服志向性タイプと「ふつう」志向性、独 自性欲求、本来感の関連性	向居暁	県立広島大学
3-4 (BR4)	デマツイート拡散意図に関わる不確かさ 不耐性と自己への関与の影響	増井啓太 長尾美乃莉 #	追手門学院大学 追手門学院大学
3-5 (BR5)	COVID-19 拡大状況において正常性バイ アスは見られるのか？	外山美樹 長峯聖人	筑波大学 東海学園大学
3-6 (BR6)	名前の好みは自尊心の指標となりうる か？	中井彩香 泉明宏 # 沼崎誠	東京都立大学 武蔵野大学 東京都立大学
3-7 (BR7)	自己への注目はアイデンティティを経て 心理的ストレスに影響する	柴田康順	大正大学臨床心理学科
3-8 (BR8)	日本の伝統的価値観および被影響性と謙 遜行動との関連について	北村英哉	東洋大学
3-9 (BR9)	大学生は目標志向性に合った方略の有効 性を認識しているのか—制御焦点の観点 から—	三和秀平 湯立 長峯聖人 海沼亮 浅山慧 外山美樹	信州大学学術研究院教育学系 東京成徳大学 東海学園大学 松本大学 筑波大学 筑波大学

3-10 (BR10)	大学生における自己隠蔽傾向、自己呈示と SNS 上の所持アカウントの特徴、インターネット行動との関連	飯尾愛子	帝京大学
3-11 (BR11)	大学生において甘えと先延ばし、時間管理スキルが遅刻に及ぼす影響—性差を要因に含めた検討—	福井義一	甲南大学
3-12 (BR12)	自肅要請時の外出意図と行動傾向—計画的行動理論の観点から—	戸田晃大 光藤宏行 # 伊藤崇達	九州大学大学院人間環境学府 九州大学大学院人間環境学研究院 九州大学大学院人間環境学研究院
3-13 (BR13)	向社会的な嘘の使用と抑うつとの関連—友人関係を媒介要因とした適応的・非適応的機能の弁別—	田口恵也	名古屋大学大学院教育発達科学研究科
3-14 (BR14)	キャリア達成を予測するネットワークインテリジェンスに関する縦断調査	加藤仁	北陸学院大学
3-15 (BR15)	多変量状態空間モデルに基づく日本の YG 性格検査得点の時代変化	下司忠大 萩原千晶 小塩真司	早稲田大学文学学術院 早稲田大学文学研究科 早稲田大学文学学術院
3-16 (BR16)	マンガの二次創作に興味を持つ男女オタクは対照的なジェンダー意識を持つのだろうか?—北田(2017)の腐女子研究を否定する	山岡重行	聖徳大学
3-17 (BR17)	パーソナリティ特性の時代差に及ぼす乗用車の普及の効果—YG 性格検査の「社会的外向」に着目して—	萩原千晶 下司忠大 小塩真司	早稲田大学大学院文学研究科 早稲田大学文学学術院 早稲田大学文学学術院
3-18 (BR18)	自己の可変性信念のあり方および形成要因と適応状態の関連	笠原千秋 平野真理	東京家政大学大学院 東京家政大学
3-19 (BR19)	仕事動機づけの自己決定性と職務満足感、疲労感との関連—外国人技能実習生を対象とした検討—	エンリン 堀内孝	立命館大学 岡山大学
3-20 (BR20)	自己の強み／弱みの受容と仮想的有能感との関連	森本哲介 高橋誠	兵庫教育大学 人間環境大学
3-21 (BR21)	多面的集団同一視と心理的健康の関連—被差別知覚と外集団回避傾向に着目して—	松木祐馬 下司忠大	早稲田大学文学学術院 早稲田大学文学学術院

- 3-22 恥意識が新型コロナウイルス感染予防対 中村真 江戸川大学
(BR22) 策の促進・抑制に及ぼす影響—仲間との
不一致に起因する恥意識は、感染予防対
策を抑制するの—
- 3-23 パーソナリティ特性の望ましさは時代と 橋本泰央 帝京短期大学
(BR23) 年齢によって変化するか—青木(1971)と 小塩真司 早稲田大学文学学院
の比較—